

『 現地理解教育 』 -地域は宝の山-

校長 萩野 幹夫

心地よい、朝の涼しさが続いています。日中暑さが増してきているように感じる今日この頃です。

先日の運動会では、大勢の保護者の方にご来校いただき感謝いたします。今回から、日本人学校だけの運動会となり、新しい種目を増やしての試みでした。時間内に終了できない可能性があり、開会式を10分早めました。この点について、深くお詫びいたします。しかし、係の児童・生徒をはじめ子どもや教職員が連携し、予定より早く終えることができました。

保護者アンケートでは、「単独なので、寂しい運動会になるのではと思っていたが、運動量も増え、盛り上がり、見ていて楽しい運動会であった」とのお声を多数いただきました。子供たちの頑張りの素晴らしさが保護者の方々に伝わりうれしい限りです。

さて、先週の金曜日に1、2年生合同で生活科の学習としてヤンゴン動物園に行ってきました。日本の動物園と大きく違うことは、多くの生き物たちが、触れることができるような距離で見られることです。例えば、カバの顔の表情、皮膚の様子や息遣いなど動物の様態や個性が手に取るようにわかり、子どもたちは驚嘆の声を上げていました。

今年度から現地理解教育の充実のために講師としてお願いしている森林インストラクター大西信吾先生に園内を案内していただきました。大西先生の解説は、先生自らがミャンマーの森林での実体験に裏付けされた知識をもとにしたお話なので、動物の見方が一層深まりました。素晴らしいガイド役をしていただきました。最後に子どもたちに「今日見た動物園の生き物は、ミャンマーの森林にたくさんいるものばかりです。いなくならないように大切にしていかななくてはと思います。」と語りかけていただきました。

今年度の現地理解教育は、フィッシャリーステーションや熱帯植物園など、多くの学年の子どもたちがミャンマーの動植物にかかわる自然学習をしました。その他、電車に乗る学年やすぐ近くにあるWWFとの連携もありました。保護者の方々がかかわっているNPO活動のご紹介もいただいていますので、今後の参考にさせていただきます。

次年度も、子どもたちのために、さらに充実した現地理解教育を実施していきたいと思えます。

＜主な学校行事等予定＞

18日(土) 弁論の会、学校公開
 25日(土) PTA総会(午前)
 3/2日(木) 「農民の日」のためお休み
 3/16日(木) 卒業式 卒園式
 3/17日(金) 終了式 離任式
 4/25日(火) 入学式 始業式

＜先月の学校運営委員会報告＞

1月20日 9:45～10:30 校長室
 出席:本宮委員長、梁井PTA会長、萩野校長
 オブザーバー渡邊教頭、塚本事務長
 議事・報告
 ① 学校状況報告 ② ボランティア保険について ③ 12月会計報告

『弁論の会』について

国語担当 末田 浩

2月18日（土）に「弁論の会」が行われます。この弁論の会のねらいは、

- ・自分の考えや意見を相手に分かりやすく伝えるにはどうしたらよいかを考え、その実践を通して、発達段階に応じた「話す力」を身に付けること。
- ・発表者が伝えたいことを考えながら聞き、発達段階に応じた「聞く力」を身に付けること。

の2点です。学習指導要領（国語編）解説の「話すこと・聞くこと」の目標には、「相手や目的、状況に応じて分かりやすく話すこと」と「話の内容を聞き取り、自分の考えに生かすこと」を段階的、系統的に身に付けることが大切であると明記されています。

「表現する」という行動には、ただ話すのではなく、聞き手を意識することで「話す速度や音量、言葉の調子や間の取り方」など表現の工夫が必要となり、一人一人が「評価・熟考すること」で自分自身の今後の学習に生かすことができます。

本校では、年度当初より「1分間スピーチ」を継続的に行ったり、すべての児童・生徒が自分の考えを伝える機会を設けてきました。この弁論の会が日ごろの学習成果を発揮する場となることはもちろんですが、ここヤングンで生活する児童・生徒のさまざまな思いや考えが述べられる素晴らしい会となればと思います。

『卒園を前にして』

幼稚部 年長パイヤ組担任 前田 美保

1月の運動会、特に親子競技では保護者の皆さまに多大なご協力をいただきありがとうございました。「おうちで一緒に練習したよ、お母さんもできたよ！」という子どもたちの満足そうな顔が見られ、素敵なふれあいの時間が持てたと思います。改めて感謝申し上げます。

先日、パイヤ組の子どもたちは空き箱を使ってミニランドセルを作りました。子どもたちの夢が詰まったランドセル、小さいけれど背負おうとする微笑ましい子どもたちの姿を見ることが出来ました。もうすぐ一年生！普段から小中学部のお兄さん、お姉さんと触れ合う機会が多い子どもたちにとって小学校は不安よりも憧れや期待が多いように思います。幼稚園生活の最後を締めくくる大切なこの時期、校庭ではストレッチをしたり、鬼ごっこやかけっこ、縄跳びをして体力作りをしたり、教室では楽しかった一年間の様々な活動を振り返る時間を作っています。

3年前、3人でスタートしたこのクラスも今では14人のお友だちが在籍しています。一緒に遊び、笑い、喧嘩もしながら一人一人が育ち、パイヤ組みんなで育ち、みんな一緒に小学校へ巣立っていきます。残りの日々も一日一日を大切に充実した活動を進めていきたいと思っています。

お知らせ

- ・1月号で紹介しました、「海外子女教育財団作文コンクール」において、2年生 浦天 敦哉君は佳作として入選していただきましたことをご紹介します。
- ・アセンブリー校舎階段下に貴重品を入れたためのダイヤル式ロッカーを一台設置しました。これは、長田広告様からの寄贈していただいたものです。外部施設利用の皆様のために活用させていただきますのでご利用ください。使用法は、ロッカー脇の説明書をお読みください。

ある雑誌のコラムに、脳科学者の茂木健一郎さんの話が目に留まりました。茂木さんのお話は、本当に刺激的でいつも面白いお話が多いですが、今回特に印象に残ったことのうちの一つに「人は面と向かって話している時の方が脳は本気になる」という内容でした。インターネットとスマホのおかげで、昔より遙かに広範な情報をリアルタイムで大量に得られるようになりましたが、「面と向かう」機会を増やして、脳を本気にさせることも大切ではないだろうかと言っています。

本校の子供たちは運動会・チルフェスや日々の授業の中で、友達や異学年の子供たちと面と向かって生活することが多いです。面と向かって「君はこうだ」と言ってくれる場合もあるし、ちょっとした相手の言葉、仕草、表情に、自分の姿が反映されることもあり、互いに関われば関わるほど、多少の軋轢も起こります。自分の長所や短所は、他人という鏡に映って初めてわかるものですが、残念なのは、せっきくのシグナルを見落としていることが多いということです。

私たち大人が子供の見本となるように、〈面と向かって〉語り合う機会を意識的に取り入れていただきたい、子供のハッスル大事なシグナルを見落とさないように肝に銘じたいものです。

お知らせ